

第4次岡谷市子ども読書活動推進計画 (案)

2024年度～2028年度



イラスト 小平陽子

長野県岡谷市教育委員会

はじめに

子どもにとって読書活動は、悲しみや喜びの感情を知り、思いやりの心を育て、豊かな人間関係を築くコミュニケーション能力の源になります。また、読書によって感性が磨かれ、想像力や思考力、表現力が高まり、心豊かに生きるための力が培われます。

近年、スマートフォンやSNS等の情報通信技術（ICT）の進展や、子どもの生活環境の変化などに伴い、子どもの読書離れが危惧されています。これからの時代を自ら切り拓き、生き抜くための知恵と能力を身につけるために、乳幼児期により良い環境の中で本に触れ、読書習慣が定着できるよう、成長期において切れ目なく読書活動を推進することが重要となっています。

子どもの読書活動の基本は「家庭」にあります。家族の温もりの中で読書に出会い、保育園・幼稚園から小中学校、高校と、集団生活で切磋琢磨する中であっても、家庭の愛情が子どもの成長を支え続けます。家庭と保育園・幼稚園、学校における日常的かつ継続的な読書活動の実践が求められています。

岡谷市では、岡谷図書館を中心に関係組織やボランティアグループによる連携した取り組みが長年にわたり継続しています。この伝統を受け継ぎ、全ての子どもがあらゆる場所で読書に親しむ機会を得られるよう、読書環境の充実を図ります。

本計画を道標として、岡谷で生まれ育つ子どもたちが、ふるさと岡谷に誇りと愛着をもち、本との出会いで得た感動や楽しさと知る喜びを体験しながら、何事にも主体的に取り組む姿勢や自己肯定感を身につけ、たくましく成長することを願っています。

最後に、計画の策定にあたりお力添えいただいた多くの皆様に心より感謝を申し上げます。

令和6（2024）年3月

岡谷市教育委員会
教育長 宮 坂 享

目 次

第4次岡谷市子ども読書活動推進計画 計画概要	1
第1章 計画の策定にあたって	
1 計画策定の趣旨と背景	3
2 計画の期間	3
3 計画の対象	3
4 計画の体系	3
5 計画の位置づけ	4
6 国・県における読書活動推進の考え方	4
第2章 施策と取組み	
1 第3次岡谷市子ども読書活動推進計画の検証と課題	
§ 施策1 家庭における子どもの読書活動の推進	5
§ 施策2 保育園・幼稚園における子どもの読書活動の推進	5
§ 施策3 学校における子どもの読書活動の推進	5
§ 施策4 図書館における子どもの読書活動の推進	6
§ 施策5 公民館・こどものくに等における子どもの読書活動の推進	6
§ 施策6 読書活動団体における子どもの読書活動の推進	7
【参考】岡谷市における子どもの読書活動の現状	8
2 第4次岡谷市子ども読書活動推進計画の施策	
§ 施策1 家庭における子どもの読書活動の推進	9
§ 施策2 保育園等における子どもの読書活動の推進	11
§ 施策3 学校における子どもの読書活動の推進	13
§ 施策4 岡谷図書館・公民館図書室等における子どもの読書活動の推進	15
第3章 計画の進行管理	19
第4章 資料編	
1 第4次岡谷市子ども読書活動推進計画策定委員名簿	20
2 第4次岡谷市子ども読書活動推進計画策定の経過	21

第4次岡谷市子ども読書活動推進計画 計画概要

基本目標

読書を楽しみながら、豊かな感性を育み、
生きるための力を高めることをめざします。

基本方針

- 1 読書習慣の定着
- 2 発達段階にあわせた読書活動の取り組み
- 3 読書環境の整備・充実
- 4 情報提供や学習・体験・交流の場の提供



施策1 家庭における子どもの読書活動の推進

- ①家庭での読書環境を整える取り組み
- ②第3日曜日「家庭読書の日」に家庭での読書を推進する取り組み
- ③出産前の親が読書と子育てについて理解を深める取り組み
- ④健康診査にあわせて読書への興味や関心を抱かせる取り組み

施策2 保育園等における子どもの読書活動の推進

- ①親子で本に親しむ機会を充実する取り組み
- ②遊び・活動における読書環境をつくる取り組み
- ③子どもの成長を記録し振り返る取り組み
- ④就園前の親子が本に親しむ取り組み
- ⑤保育園児等が図書館を訪問体験する取り組み
- ⑥「こどものくに」の本に親しむ取り組み

施策3 学校における子どもの読書活動の推進

- ①朝読書をより充実させる取り組み
- ②読書手帳を活用し自らの読書活動を実感する取り組み
- ③自ら学ぶ楽しさや知る喜びを感じ、想像力や探究心を高める取り組み
- ④岡谷図書館と学校図書館とのネットワークを強化する取り組み
- ⑤1人1台のタブレット端末を用いて電子書籍を活用する取り組み
- ⑥PTAの読書推進活動等を支援する取り組み
- ⑦電子書籍の活用により不読率を改善する取り組み

施策4 岡谷図書館・公民館図書室等における子どもの読書活動の推進

- ①豊富な児童書を活かし、本に触れる機会の充実を図る取り組み
- ②来館者とのコミュニケーションを大切にする取り組み
- ③より多くの親子が岡谷図書館を訪れる取り組み
- ④世代間の利用交流を呼びかける取り組み
- ⑤魅力ある「おはなしの森」を再構築する取り組み

- ⑥子どもの背中を押し続けるブックリストを作る取り組み
- ⑦読書活動バリアフリー化の取り組み
- ⑧身近な場所での読書環境を整える取り組み
- ⑨中学生高校生の図書館利用促進に向けた取り組み
- ⑩レファレンス機能を強化する取り組み
- ⑪読書に関係する団体を育成し支援する取り組み

第1章 計画の策定にあたって

1 計画策定の趣旨と背景

本市では、子どもの読書活動の推進を図るため、平成31（2019）年3月に令和5（2023）年度までの5年間の「第3次岡谷市子ども読書活動推進計画」を策定し、さまざまな施策に取り組んできました。しかしながら、令和2（2020）年度から、新型コロナウイルス感染症の影響が社会全体におよび、非常事態宣言の発令等により、行動の制限や感染防止対策等、これまでの生活様式を大きく見直すことを余儀なくされました。このことにより、人々の行動や意識も変化し、現在では新しい生活スタイルが定着しつつあります。様々な分野でオンライン化が一気に進み、学校現場では一人に1台の端末が導入され、子どもたちを取り巻く情報環境は大きく変化しました。また、令和4（2022）年8月には、県内全市町村と県との協働による電子図書館もスタートしました。こうした状況のなか、読書においては非常事態宣言中のステイホームにより、読書への関心が高まってきています。

新たに策定する計画は、前計画の取り組みの成果や課題を踏まえ、「創造性と生きる力を育むための読書」と「世界観を広げ社会と関わるための読書」を具体化し実践化することを目的に、岡谷市の基本的な考え方と施策を示し、保育園や幼稚園等、学校および読書活動ボランティアによる子ども読書活動推進の指針となる計画とします。

2 計画の期間

計画の実施期間は、令和6（2024）年度から令和10（2028）年度までの5年間とします。

3 計画の対象

この計画の対象は、0歳から概ね18歳までの子どもとします。子どもの発達の過程に即した読書活動を推進するために、家庭、保育園・幼稚園、こどものくに、学校、地域、関係団体を対象とします。

4 計画の体系

基本目標「読書を楽しみながら、豊かな感性を育み、生きるための力を高めることをめざします」

- 基本方針
- 1 読書習慣の定着
 - 2 発達段階にあわせた読書活動の取り組み
 - 3 読書環境の整備・充実
 - 4 情報提供や学習・体験・交流の場の提供

基本目標および基本方針を受け、「成長樹（期）子育て実践ポイント」におけるライフステージにあわせた4つの施策を推進します。

5 計画の位置づけ

この計画は、「子どもの読書活動の推進に関する法律 平成 13 年（2001 年法律第 154 号）第 9 条※に基づき策定するもので、岡谷市の子どもの読書活動を推進するための総合的な計画です。また、第 5 次岡谷市総合計画の教育分野の個別計画として位置づけ、「岡谷市教育大綱」および「岡谷市生涯学習推進計画」の掲げる方針に基づくものです。

6 国・県における読書活動推進の考え方

(1) 国の基本方針

- 不読率の低減
- 多様な子どもたちの読書機会の確保
- デジタル社会に対応した読書環境の整備
- 子どもの視点に立った読書活動の推進

第五次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」について（通知）
（令和 5 年 3 月 28 日付 4 文科教第 1858 号）

(2) 長野県の基本理念と目指す姿

基本理念：豊かな読書を子どもたちに ～発達段階に応じた取組～

<目指す姿>

- 心や言葉を育む「読書」
- 「知る」ことの楽しさをもたらす「読書」
- 創造性と生きる力を育むための「読書」
- 世界観を拡げ、社会とかがわるための「読書」



◎人生に生かす

これからの予測困難な未来を自ら切り拓き、
夢を実現する力を身に付けられる

（第 4 次長野県子ども読書活動推進計画：令和 2～6 年度）

用語の説明

※子どもの読書活動の推進に関する法律第 9 条：市町村は（中略）子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画を策定するよう努めなければならない。

第2章 施策と取り組み

1 第3次岡谷市子ども読書活動推進計画の検証と課題

第3次計画の策定時には想定できなかった社会全体の急激な情勢変化により、施策として掲げた29の取り組みの多くが中止・縮小となり、目標指数を達成できない状況となりました。以下に各施策の検証と主な目標指数、今後の課題を示します。

§ 施策1 家庭における子どもの読書活動の推進

ファーストブックプレゼント事業はかなり定着しており、本に触れ読み聞かせのスタートとして大切な機会となっています。乳幼児期や学校、その先の将来に向けての本との出会いにつなげるため「成長にあわせたブックリスト」をあわせて配布しました。

P T Aによる読書活動については、役員の負担軽減等を理由にP T A図書部（委員会）の活動の見直しがされています。

ファーストブックプレゼント事業（目標指数：対象児への配布率）

年度	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
目標指数(%)	100	100	100	100
実績(%)	95.7	97.2	90.7	91.2

- 【今後の課題】
- ・ファーストブックプレゼントの配布率の向上
 - ・学校の実情にあわせたP T A（保護者）の読書活動の支援

§ 施策2 保育園・幼稚園における子どもの読書活動の推進

保育園・幼稚園では、日々の活動の中で絵本の読み聞かせを積極的に行っています。未就園児親子交流での読み聞かせのほか、パネルシアターなどを活用し、保護者も読み聞かせの楽しさを体験することで読書の大切さが伝えられています。子どもたちの身近にいつでも絵本があるように、保育園・幼稚園の親子文庫を設置、配布し読み聞かせ等にも活用しています。

保育園・幼稚園の親子文庫事業（目標指数：年間貸出冊数）

年度	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
目標指数(冊)	47,500	57,000	57,000	57,000
実績(冊)	47,074	36,070	19,791	37,336

- 【今後の課題】
- ・保育園・幼稚園の親子文庫の継続と運営の支援

§ 施策3 学校における子どもの読書活動の推進

「朝読書」は全小中学校で定着しています。岡谷図書館の「分館（アネックス）」として岡谷図書館の本を教室に配置し、岡谷図書館の本の返却ポストを設置する等学校との連携を図りました。

岡谷図書館との連携（目標指数：アネックス等学校への年間貸出数）

年度	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
目標指数(冊)	—	8,652	8,652	8,652
実績(冊)	—	3,635	5,119	5,974

- 【今後の課題】
- 学校が必要とする岡谷図書館の役割の把握
 - 朝読書に携わるボランティアの育成支援
 - 電子図書館「デジとしょ信州」の授業等での活用

§ 施策4 図書館における子どもの読書活動の推進

新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を徹底し、事業内容の見直しを図りながら、「おはなしの森」「としょかん子ども読書まつり」等の行事を開催しました。また、テーマブックコーナーや市各部署で実施するさまざまな事業に関連した書籍を展示しました。

読み聞かせ事業（目標指数：「おはなしの森」参加者数）

年度	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
目標指数(人)	700	770	850	940
実績(人)	689	376	390	457

- 【今後の課題】
- 行事やイベント内容の見直しと新しい取り組みの検討
 - 司書等スタッフのスキルアップ

§ 施策5 公民館・こどものくに等における子どもの読書活動の推進

3公民館図書室は、地域の身近な図書室として小学生を中心に利用されています。「こどものくに」では、子どもと保護者が本に親しめる環境を整え、「わくわくタイム」、「おはなしたまご」などの絵本の読み聞かせも行っています。

「こどものくに」における読書活動（目標指数：行事への参加者数）

年度	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
目標指数(人)	560	620	620	620
実績(人)	560	456	184	277

- 【今後の課題】
- 公民館図書室の利用促進

§ 施策6 読書活動団体における子どもの読書活動の推進

読書ボランティア連絡会「おはなしだいすきポポーの木」と協働し、「おはなしの森」「としょかん子ども読書まつり」等を開催しました。

関係団体との協働（目標指数：読書ボランティア連絡会の構成団体数）

年度	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
目標指数(団体)	6	8	10	12
実績(団体)	6	6	6	6

【今後の課題】 ・読み聞かせボランティアの育成と支援

【参考】岡谷市における子どもの読書活動の現状

(1) 岡谷市の18歳以下の子どもの数

6,876人（令和4年10月1日現在） 前年比 △125人

(2) 岡谷図書館の児童書の蔵書数

103,895冊（蔵書全体に対する割合44.3%、諏訪6市町村全体30.2%）

(3) 児童書の貸出冊数の推移（年度）

①本館 (冊)

H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
85,879	83,409	62,334	72,499	73,145
38.4%	38.9%	39.0%	40.5%	39.7%
対前年度比	△2,470	△21,075	+10,165	+646

*%は総貸出冊数にしめる児童図書館の割合

②公民館図書室（湊・川岸・長地） (冊)

H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
16,950	17,765	11,053	9,880	8,677
対前年度比	+815	△6,712	△1,173	△1,203

③保育園幼稚園親子文庫 (冊)

H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
47,396	47,074	40,241	19,791	37,336
対前年度比	△322	△6,833	△20,450	+17,545

④18歳以下の利用者への図書貸出冊数（本館のみ） (冊)

H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)
47,300	46,849	31,418	39,631	41,746
対前年度比	△451	△15,431	+8,213	+2,115

2 第4次岡谷市子ども読書活動推進計画の施策

§ 施策1 家庭における子どもの読書活動の推進

胎児期から3歳までの時期に読み聞かせによる「耳からの読書」で本に触れる機会を増やすことは、その後の成長過程において本に親しみ楽しむ子どもを増やし人生を豊かにするための第一歩です。そのためには、家庭において子どもの読書環境を整えることが大切です。本計画では、この時期を子ども読書活動の最も重要な時期ととらえ、乳幼児期から高校生まで切れ目のない事業を展開します。

中学生・高校生と年齢が上がるにつれて子どもの活動範囲の広がりとともに読書量も減る傾向にあります。この時期は、家庭においては、子どもが自ら学ぶ姿を温かく見守ることも時には大切です。家族のコミュニケーションをとりながら子どもの気持ちを理解し、子どもの読書への関心や取り組みに寄り添いともに考える機会も必要になります。

- 【前計画の課題】
- ・ファーストブックの配布率の向上
 - ・学校の実情にあわせたPTA（保護者）の読書活動の支援

《具体的な事業と取り組み》

① 家庭での読書環境を整える取り組み

乳幼児期から幼少期を中心に、モデル的な読書環境のイメージを、マンガ等を交えたチラシを作成し配布します。



(マンガによるPR)

② 第3日曜日「家庭読書の日」に家庭での読書を推進する取り組み

保育園や学校等を通じてチラシを配布するとともに、ホームページや広報おかや、シルキーチャンネルにより全市民に周知します。具体的には、「家庭読書の日」の前日の図書貸出し冊数を増やすなど日曜日の家庭での読書習慣の定着を図ります。

③ 出産前の親が読書と子育てについて理解を深める取り組み

胎児期には、出産を控えた保護者を対象とした「パパママ教室」*1などの機会に、出産後のファーストブック事業*2やファーストチョイスブック事業*3を紹介し、乳幼児が本に親しむ環境を整えます。また、電子図書館は貸し出しや返却の手間がなく、家庭で手軽に育児に関する情報を得られることから出産前後の利用を推奨します。



(ファーストブック事業)

④ 健康診査にあわせて読書への興味や関心を抱かせる取り組み

健康推進課が実施する健康診査にあわせて

「ファーストブック事業」及び「ファーストチョイスブック事業」を継続して実施し、配布方法の見直しにより配布率の向上に努めます。

【成長樹(期)子育て実践ポイントより】 ※おかや子育て憲章を具現化した子育て実践ポイント
○乳児期（0歳）・幼児期（1歳～5歳）

「絵本は乳児・幼児の心と言葉を育てます。いろいろな絵本を親子でいっしょに見たり読んだりしましょう」

《家庭における子ども読書活動推進のための実践ポイント》

- 子どものころに読んだなつかしい絵本を読んでもみましょう。
ぜひ声に出して読んでみてください。おなかの中の赤ちゃんへ最初の読み聞かせになると思います。
- 岡谷図書館やこどものくにへ出かけてみませんか。
ファーストブック以外にも0歳児からの絵本がたくさんあります。子どもたちの「はじめての読書」は、お父さん・お母さんの読み聞かせです。お気に入りの絵本を探しにお出かけください。
- まず、大人がテレビを消し、スマホのゲームやネット動画をやめて身近に本を置くことで、ちょっとした「すきま時間」を読書の時間にしませんか。

用語の説明

- ※1「パパママ教室」：健康推進課の事業。妊婦の方やその夫またはパートナーを対象に出産に向けた講座や体験をする教室。
- ※2「ファーストブック事業」：子どもと保護者に読みきかせの楽しさを経験してもらうために、9・10か月健診時に絵本をプレゼントする事業。
- ※3「ファーストチョイスブック事業」：3歳児を対象にオリジナルイラスト付き「図書館利用カード」をプレゼントする事業。実際に、岡谷図書館へ来館して子ども自身が絵本を選び、借りることを経験する。

《 目標指標 》 「岡谷図書館の絵本・児童書の貸出冊数」

現状値 R4（2022）年度	目標値 R10（2028）年度
119,158 冊	140,000 冊

評価に用いる項目

- ・ 行事・イベント参加者の感想
- ・ 電子図書の利用者の声
- ・ 公民館図書室職員の意見
- ・ 読書関係団体グループの意見



§ 施策2 保育園等における子どもの読書活動の推進

岡谷市内には公立保育園 13 園（うち 1 園休園）、私立認定こども園 1 園、私立保育園 2 園、私立幼稚園 3 園（こどものくにを含め「保育園等」という。）があり、すべての園に岡谷図書館から絵本を配本し、親子文庫^{*1}として配置しています。また、中心市街地にある「こどものくに」^{*2}では、親子の触れ合いのなかで、子どもに本の楽しさを伝えています。

これらの乳幼児施設では、職員による読み聞かせとともに、子どもが自らの意思で本を選び表紙を開く機会の充実に努めます。遊戯や演劇の題材としての昔話や童話を通じて読書への関心を高めるとともに、園での未就園児親子交流では、家庭からの懸け橋として読書活動のスムーズな移行を支援します。

【前計画の課題】 ・ 保育園・幼稚園の親子文庫の継続と運営の支援

《具体的な事業と取り組み》

① 親子で本に親しむ機会を充実する取り組み

保育園等の親子文庫事業では、子どもとともに保護者も一緒に本を楽しむため、貸し出し希望の多い新刊本などを配布し、園と保護者会の協働を支援します。



（保育園親子文庫）

② 遊び・活動における読書環境をつくる取り組み

遊びや散歩、製作等の活動を通じて、園の内外でテーマや季節ごとの本に触れる環境づくりの提案等を行い、探究的な活動を支援して幼児期の生きる力の土台づくりを園とともに進めます。また、保育に必要な図書や読書活動の情報収集に努め、園とともに環境づくりを推進します。

③ 子どもの成長を記録し振り返る取り組み

読書手帳^{*3}のスタイルを見直し、子ども・家庭・園で読書の記録を楽しく行えることで子どもが本に触れる楽しさを感じる機会や読書手帳を通して子どもの成長を振り返る機会を増やします。

④ 就園前の親子が本に親しむ取り組み

未就園児親子交流^{*4}では、未就園児とその保護者が市立保育園に集まり、保育園での生活を体験します。その中で保育士が読み聞かせなどを行い、家庭での好きな絵本の読み聞かせから、より広い本の世界へ保育士が導き、読書活動のステップアップを図ります。

⑤ 保育園児等が図書館を訪問体験する取り組み

保育園等の園児が、遠足等の行事にあわせて岡谷図書館を訪問し館内を見学し、その後の親子での来館と絵本等の貸し出しにつなげます。

⑥「こどものくに」の本に親しむ取り組み

ブックリストのおすすめ絵本コーナーに加え、保護者がほっとできる図書コーナーを充実します。また、毎日午前午後に体操や読み聞かせを行い、子どもと保護者に絵本の楽しさを紹介します。さらに、出版社が新刊本を紹介し毎月発行する「こどもの本」を配置し、岡谷図書館に新たに収集した子ども向け図書の紹介を定期的に行います。



(子育て支援館こどものくに)

【成長樹(期)子育て実践ポイントより】※おかや子育て憲章を具現化した子育て実践ポイント
○乳児期(0歳)・幼児期(1歳～5歳)

「絵本は乳児・幼児の心と言葉を育てます。いろいろな絵本を親子でいっしょに見たり読んだりしましょう」

《保育園・幼稚園等における子ども読書活動推進のための実践ポイント》

- 岡谷図書館の「おはなしの森」に来てみませんか。
毎週土曜日午前11時から、図書館職員やボランティアによる読み聞かせや紙芝居、エプロンシアターなどを行っています。大人の方も一緒に絵本を楽しんでください。

用語の説明

- ※1「親子文庫」：岡谷図書館から市内の保育園幼稚園に毎年絵本を配本し、園内に設置。
- ※2「こどものくに」：3歳までの親子が無料で利用できる室内子育て支援施設。
- ※3「読書手帳」：読んだ本のタイトルや作者、感想を記録するもの。
- ※4「未就園児親子交流」：保育園入園前の子どもと保護者を対象に、在園児との交流や保護者同士の交流の場として、毎月各保育園で実施。

《 目標指標 》 「親子文庫の貸出冊数」

保育園・幼稚園の親子文庫貸し出し冊数

現状値 R4 (2022) 年度	目標値 R10 (2028) 年度
37,336 冊	38,000 冊

<参考> 令和5年5月1日現在園児数 1,210人(対前年度比△46人)

評価に用いる項目例

- ・貸し出しに協力した保護者の感想
- ・保育園・幼稚園園長の意見
- ・新刊図書希望調査時の園の意見



§ 施策3 学校における子どもの読書活動の推進

小学校、中学校、高等学校では、それぞれに子どもの成長に応じた読書環境を整えることが大切です。小学校では生活のリズムが大きく変わり、子どもの感情も豊かになります。また、中学校では、友達の影響も受けながら興味や関心が広がりを見せ、高等学校では自身の将来を考え専門分野を探究する子どもが増えてきます。子どもたちは成長する過程において、読書の楽しさ面白さ大切さを身につけていきます。

岡谷市では、全ての小中学校で「朝読書」^{※1}が行われ、読書習慣を身につけるために重要な役割を果たしています。また学校図書館は、子どもたちが日々興味や関心を持つ本を自ら手にとり学習する場として司書教諭と学校図書館司書が子どもたちを支援しています。高等学校の図書館では、専任司書教諭の指導により科目ごとの専門書や進路に関わる図書など読書の幅を広げ深めていきます。

さらに、各成長段階への懸け橋として、「岡谷図書館分館（アネックス）」^{※2}が保育園や幼稚園等から小学校へ、また電子図書館「デジとしよ信州」^{※3}は中学校から高等学校への読書活動の継続性と発展性をもたらす役割を果たします。この電子図書館は、学校教育への活用も期待され、ふるさとの歴史と文化を学ぶ地域資料などの電子書籍化を検討します。

- 【前計画の課題】
- 学校が必要とする岡谷図書館の役割の把握
 - 朝読書に携わるボランティアの育成支援
 - 電子図書館「デジとしよ信州」の授業等での活用

《具体的な事業と取り組み》

① 朝読書をより充実させる取り組み

小中学校において朝読書のさらなる充実を図り、生活リズムの中へ読書習慣の定着を図ります。そのために「読書」の選択肢のひとつとして、タブレット端末による電子図書の体験導入を検討し、情報教育との相乗効果を生み出します。



(小学生の図書館訪問)

② 読書手帳を活用し自らの読書活動に喜びを感じる取り組み

読了冊数と記念品を見直し、自分の読書活動の努力が認められるよう読書活動に喜びを持てるような取り組みを検討します。

③ 自ら学ぶ楽しさや知る喜びを感じ、想像力や探究心を高める取り組み

教育課程の学力向上の方針と読書活動の役割を明確にしながら、読書活動を通して児童生徒が自ら学ぶ楽しさ、想像力や探究心を育むため、学校図書館教育推進委員会と学校図書館司書連絡会との連携を深め、「調べ学習」を中心とした資料等の相談に、より迅速丁寧に対応します。

④ 岡谷図書館と学校図書館とのネットワークを強化する取り組み

岡谷図書館で借りた図書を学校図書館等で返却できる制度のさらなる利用促進を図ります。また、教職員からのレファレンスへの対応を強化し、岡谷図書館と学校図書館、児童、生徒、教職員とのネットワークを築きます。

⑤ 1人1台のタブレット端末を用いて電子書籍を活用する取り組み

学校との連携により、岡谷スタンダードカリキュラム^{※4}の養蚕や製糸業などのふるさと学習や防災教育への電子図書館の活用を検討します。



(ふるさと学習の資料)

⑥ PTAの読書推進活動等を支援する取り組み

各学校の状況に応じてPTA図書部（委員会）などの活動と保護者による読み聞かせの支援に努めます。

⑦ 電子書籍の活用により不読率^{※5}を改善する取り組み

市町村と県が協働運営する「デジとしょ信州」の登録と利用の拡大を図り不読率の改善に努めます。

【成長樹(期)子育て実践ポイントより】 ※おかや子育て憲章を具現化した子育て実践ポイント

○小学校期

「子どもも学校での人間関係、学業成績などたくさんのストレスがあります。悩みを聞いて子どもに安心感を持たせてあげたり、家族そろって読書の時間をつくったりするなど、家族のコミュニケーションの時間をつくりましょう」

○中学校期・高校期

「本を読むことで、子どもの知識と想像力が膨らみます。時には人生に影響を与えるような本に巡り合うことも。子どもが生涯を通じて読書をたのしめるように導いてあげましょう」

《学校における子ども読書活動推進のための実践ポイント》

- 小学生になっても読み聞かせは楽しいもの。
「もう小学生になったから」ではなく、自分で本を読めるようになってからも読み聞かせを続けてください。人に読んでもらう楽しさは格別です。
- 朝読書の読み聞かせのボランティアをしてみませんか。
中学生も小学校を訪問し読み聞かせをしています。保護者の皆さんも朝読書の時間に、小学生や中学生へ読み聞かせをしてみませんか。

用語の説明

※1「朝読書」：学校で毎朝授業の始まる前の10～15分間、自分の読みたい本を読む、朝の読書活動。

- ※2「岡谷図書館分館（アネックス）」：子どもたちの身近に本があるように、市内小学校1、2年生を対象に岡谷図書館の本をクラスに貸し出す事業。
- ※3「デジとしよ信州」：電子書籍を貸し出す市町村と県による協働電子図書館。令和4年8月5日から開始した。
- ※4「岡谷スタンダードカリキュラム」：地域の資源を活用した学びを推進し、郷土に誇りを持ち、ふるさと回帰の心を育むために岡谷市が独自に構築したカリキュラム。
- ※5「不読率」：公益社団法人全国学校図書館協議会実施の「学校読書調査」内で、「5月1か月間で読んだ本が0冊の子どもの占める割合。

《 目標指標 》 「岡谷図書館における子どもたち*への貸出冊数」

現状値 R4（2022）年度	目標値 R10（2028）年度
47,382 冊	48,000 冊

*18歳以下の利用者カードによる貸出冊数とデジとしよ信州の20歳未満の貸出冊数

評価に用いる項目例

- ・学校図書館司書の意見
- ・児童・生徒の読書に対する思い（アンケート等）
- ・学校図書館教育推進委員会の意見



§ 施策4 岡谷図書館・公民館図書室等における子どもの読書活動の推進

岡谷市における子ども読書活動推進の中心的役割は岡谷図書館が担い、湊、川岸、長地地区の3公民館図書室は、岡谷図書館から遠い子どもたちへの読書活動推進の拠点でもあります。

また、保育園等や小中学校、高等学校及び「おはなし大好きポポーの木」※1等の読み聞かせ団体との連携をさらに深め、子どもの成長に応じた切れ目のない読書活動推進施策を展開します。

- 【前計画の課題】
- ・ 行事やイベント内容の見直しと新しい取り組みの検討
 - ・ 司書等スタッフのスキルアップ
 - ・ 公民館図書室の利用促進
 - ・ 読み聞かせボランティアの育成と支援

《具体的な事業と取り組み》

① 豊富な児童書を活かし、本に触れる機会の充実を図る取り組み

岡谷図書館では、「おはなしの森」※2や「としよかん子ども読書まつり」※3など各成長期の段階に応じた行事やイベントを企画し開催します。また、児童書の収蔵割合の高い特徴を生かし、絵本や紙芝居の館内外での活用を進めます。

② 来館者とのコミュニケーションを大切にする取り組み

岡谷図書館を「岡谷の読書活動」の中心に位置づけ、子どもたちが館の内外において心地よく本を読み楽しめる空間をつくります。

また、来館する子どもたちと職員が交流する機会を増やし温かくお迎えする雰囲気づくりに努めます。

③ より多くの親子が岡谷図書館を訪れる取り組み

地域の子育てサークルや育成会などに図書館訪問を年間行事に盛り込むよう呼びかけます。



(子育てサークルの訪問)

④ 世代間の利用交流を呼びかける取り組み

高齢者を対象に大活字本や大人の紙芝居、落語、スマートホンの電子図書を紹介する「生き生き図書館講座」を開催し、読書を通じた孫子との世代間交流につなげます。

⑤ 魅力ある「おはなしの森」を再構築する取り組み

職員が担当する「おはなしの森」に季節ごとの山、湖、鉄道などのテーマを設け関連する絵本の読み聞かせのほか、自然に関わる話や鉄道模型など体験型の遊びなどを取り入れます。

⑥ 子どもの背中を押し続けるブックリストを作る取り組み

子どもの成長期や目的に応じて、読書活動を後押しする図書の最新リストを、保育園・幼稚園の保育士、小中学校の図書館司書などの意見をもとに作成し更新します。また、読書手帳を子どもの成長の記録が残る形に見直します。

⑦ 読書活動バリアフリー化の取り組み

デジタル社会の新たなツールとしての電子図書館を活用し、視覚障がい児の学習支援や日本語支援が必要な子どもたちへの読書機会の提供を検討します。また、多国籍の在住外国人の子どもたちが岡谷図書館を利用し母国語と日本語で本に親しむ仕組みを検討します。



(外国人による英語の読み聞かせ)

⑧ 身近な場所での読書環境を整える取り組み

湊、川岸、長地地区の3公民館に設置された図書室では、子どもたちが歩いて利用できる読書の場として一層の活用を図ります。また、地域における子育てサークルや育成会、子ども食堂^{※4}など、さまざまな地域での活動を通じて読書活動の推進を図ります。



(湊公民館図書室)

⑨ 中学生高校生の図書館利用促進に向けた取り組み

子ども向けの本では物足りないが、大人向けの本は何を読めば良いかわからない、という中学生高校生のためにヤングアダルト^{※5} コーナーの充実を図ります。

⑩ レファレンス^{※6}機能を強化する取り組み

岡谷図書館の業務の見直しにより学校教職員の求めるレファレンスに的確かつ迅速に対応するため司書の研修や先進地視察によりスキルアップを図り、子どもの学習活動を支援します。

⑪ 読書に関係する団体を育成し支援する取り組み

関連団体との連携では、「おはなしだいすきポポーの木」の読み聞かせ団体や読書サークルとの協力を継続的に行い、ボランティアによるグループ活動の支援を行います。

また、子育てサークルや子ども食堂などに出向いて読み聞かせをする等、地域での読書活動を広める取り組みを応援します。



(子ども食堂での読み聞かせ)

《岡谷図書館・公民館図書室における子ども読書活動推進のための実践ポイント》

- 市民の皆さん、読み聞かせのボランティアをやってみませんか。
わが子への読み聞かせを思い出し、学校や岡谷図書館で子どもたちに絵本を読んでみませんか。

用語の説明

- ※1 「お話しだいすきポポーの木」：岡谷図書館や学校等で読み聞かせ等の活動を行っている市内のボランティアグループと個人で構成されたボランティア団体の連絡会の愛称。
- ※2 「おはなしの森」：毎週土曜日の午前中に開催。絵本の読み聞かせやパネルシアター、昔話等を行っている。現在の場所に岡谷図書館が開館した当時から継続されている。
- ※3 「としょかん子ども読書まつり」：平成元年にスタートし、ボランティア団体による人形劇、パネルシアター、読み聞かせ、工作等を行う。
- ※4 「子ども食堂」：家庭の負担軽減と孤食解消を目的として民間団体が実施する食堂。
- ※5 「ヤングアダルト」： Young Adult。主に中学生から高校生を中心とした 10 代の「若い人」をさす言葉。
- ※6 「レファレンス」：利用者の問い合わせに応じ、司書が図書の紹介や検索をする業務。

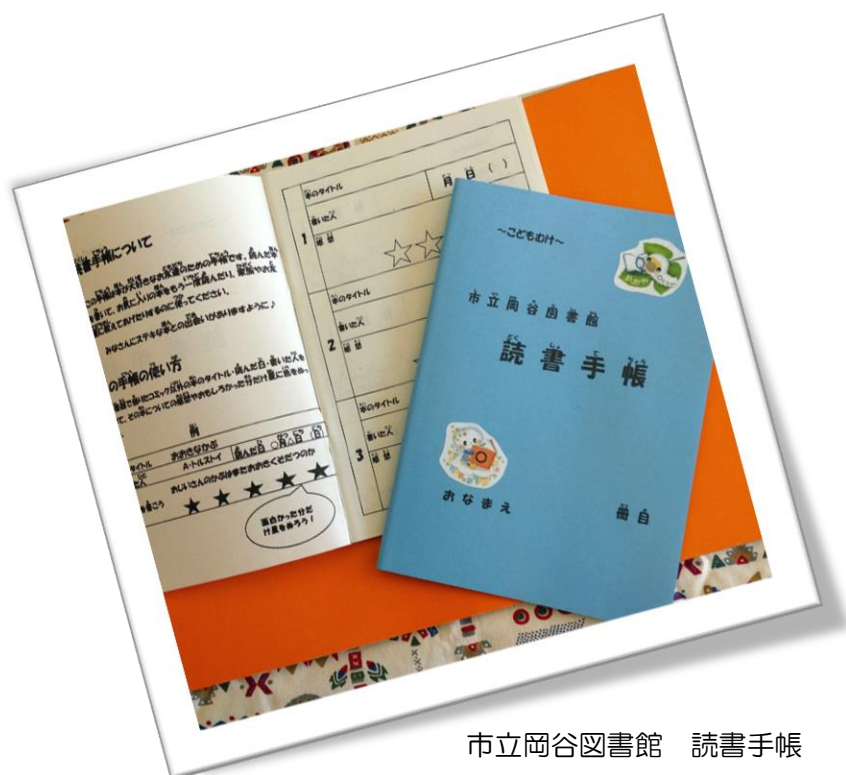
《 目標指標 》 岡谷図書館及び公民館図書室が実施する事業やイベントの回数

現状値 R4 (2022) 年度	目標値 R10 (2028) 年度
50 回	60 回

<参考>おはなしの森、工作教室、子ども読書まつり、としょかんキッズ等

評価に用いる項目例

- 来館する小中高校生の意見
- 事業に参加した人の感想
- 事業を実施した団体・グループ等による課題



市立岡谷図書館 読書手帳
(本計画 11、13 ページ)

第3章 計画の進行管理

計画の進捗状況の把握や取り組みの評価は、PDCAサイクルにより常に見直しを図ります。

このうち、チェック（評価）においては、目標数値の達成度だけでなく、事業内容や行事等に参加した子どもや保護者の声を聞き、目に見えない成果や表面に数値では現れない状況を岡谷市子ども読書活動推進会議に示し、評価を議論します。



《PDCAサイクル》の事例「おはなしの森」

第1サイクル

PLAN：計画	毎週土曜日の午前中約 30 分の読み聞かせ等を開催 会場：岡谷図書館2階会議室
DO：実行	ボランティア団体の協力を得て、館内放送で呼びかけるとともに来館中の親子に声をかけ参加を促す。
CHECK：評価	天候等により参加者が少ない日もあり周知が足りない。また、集まる年齢層により読み聞かせの題材が難しい。
ACTION：改善	広報や新聞での周知を継続して行い、毎回日程と出演団体を表示した手書きのイラスト入りポスターを玄関掲示板に貼り周知。ボランティア団体と協議し、子どもの年齢にあわせて題材を幅広く用意した。

第2サイクル

PLAN：計画	参加人数は徐々に増える傾向にあるが、まだ周知がたりない
DO：実行	会場を児童コーナーに変更する。
CHECK：評価	階段状の席から絵本も見やすく、読み聞かせの様子が来館者の目に入りPRできたが、館内に読み聞かせの声や歓声が響いた。
ACTION：改善	「おはなしの森」開催中の案内を掲示し、来館者に子ども読書推進への理解を求める。また、子どもたちの元気な笑顔や声を見て聞いてもらう。

第3サイクル

PLAN：計画	内容が絵本の読み聞かせに偏りがち。手足を動かせる内容を入れる。
DO：実行	手遊びやエプロンシアターなどを取り入れ、体験・参加型とする。
CHECK：評価	プログラムの途中で体を動かすことで子どもたちの緊張もほぐれ、絵本への集中力も高まった。
ACTION：改善	保護者が家庭でもできるような簡単な手遊びなどを紹介しても良い。また、おはなしの森が楽しい場所というイメージを定着させる。

第4章 資料編

○第4次岡谷市子ども読書活動推進計画策定委員名簿

委員長：小松 厚 副委員長：林 勝子

有識者	下諏訪町教育委員会教育こども課教育支援員	林 尚江
	一般財団法人 諏訪湖勤労者福祉サービスセンター (ウェルワーク諏訪湖)常務理事兼事務局長	小松 厚
	信学会東堀こども園園長	酒井 重明
	ファブスペースハナレ代表・社会教育委員	濱 元氣
団体 読書活動	読書活動ボランティア団体 おはなしだいすきポポーの木 会長	林 勝子
	元 岡谷市PTA図書委員会副委員長(川岸小学校)	小林 照宏
学校	上の原小学校校長 (岡谷市小中学校校長会図書館教育代表)	塩澤 真千子
	岡谷南部中学校校長 (岡谷市小中学校校長会図書館教育副代表)	守屋 守
	岡谷市学校図書館司書 (岡谷市学校図書館司書代表)	清水 めぐみ
	岡谷南高等学校図書館司書 (岡谷地区高校図書館司書代表)	河西 美奈子
関係行政部署	こどものくに館長	田中 美晴
	岡谷市園長会図書担当 (西堀保育園園長)	小口 みさき
	健康推進課 保健指導主幹	矢澤 亜矢

アドバイザー

岡谷市教育委員会 統括教育支援主事 兼 学力向上アドバイザー	花岡 ひさ江
-----------------------------------	--------

事務局 岡谷市教育委員会 生涯学習課 市立岡谷図書館

○第4次岡谷市子ども読書活動推進計画策定の経過

年 月 日	内 容
令和5年5月31日	第1回 第4次岡谷市子ども読書活動推進計画策定委員会 (委員委嘱、正副委員長選出、計画の概要説明)
7月26日	第2回 第4次岡谷市子ども読書活動推進計画策定委員会 (計画の素案について協議)
9月29日	第3回 第4次岡谷市子ども読書活動推進計画策定委員会 (計画の素案について協議)
12月 1日	第4回 第4次岡谷市子ども読書活動推進計画策定委員会 (計画の素案について協議)
令和6年1月 5日	部長会議
1月 12~31日	パブリックコメント (計画案について市民から意見聴取)
2月 2日	第5回 第4次岡谷市子ども読書活動推進計画策定委員会 (計画最終案について協議)
2月 8日	岡谷市定例教育委員会 (計画の決定)
3月 1日	行政管理委員会 (計画の報告)
3月 日	岡谷市議会総務委員会 (計画の報告)

第4次岡谷市子ども読書活動推進計画

発行年月 令和6（2024）年3月

発行 岡谷市教育委員会

編集 岡谷市教育委員会 生涯学習課 市立岡谷図書館

〒394-0028

長野県岡谷市本町四丁目1番39号

TEL0266-22-2031 Fax 0266-24-3838